

2019年（令和元年）第2四半期決算説明



2019年10月24日

鉦研工業株式会社

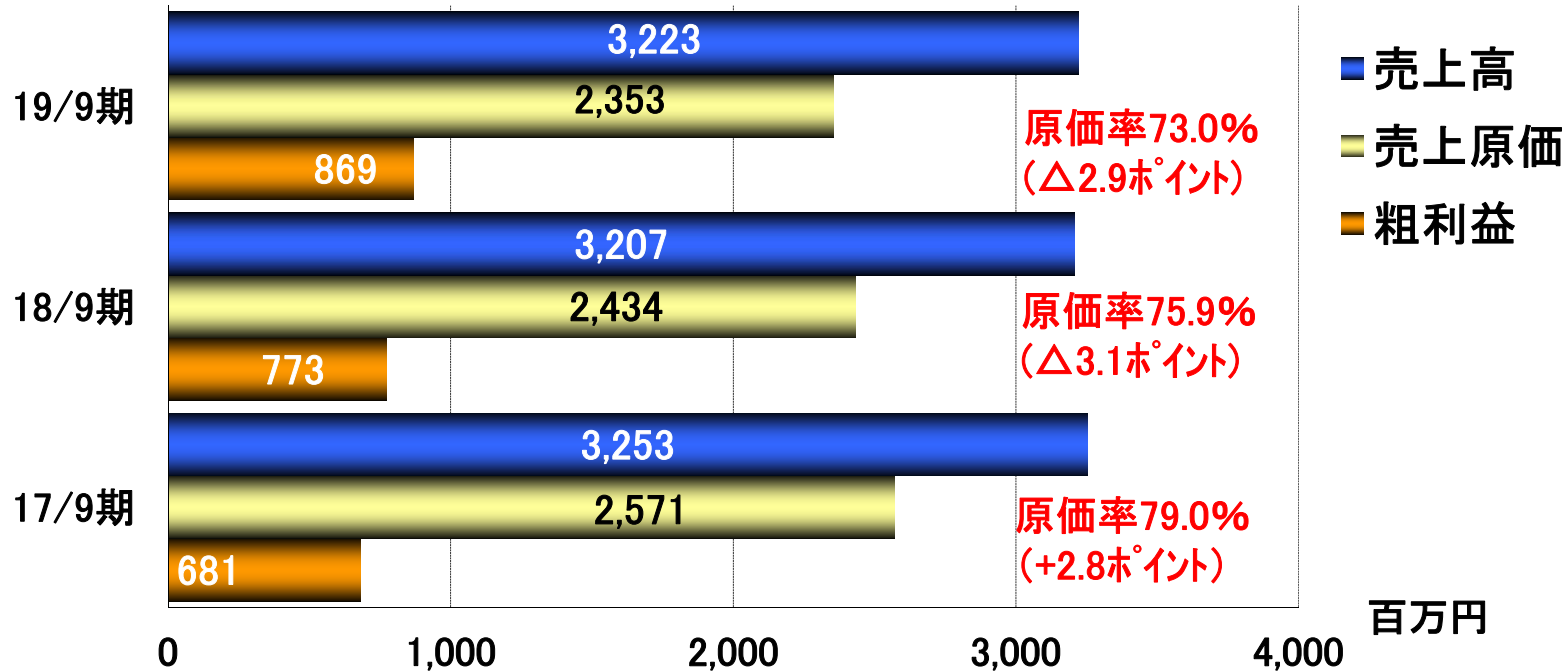


決算の概要(第2四半期累計)

(単位:百万円)

	連 結			個 別		
	18/2Q	19/2Q	増 減	18/2Q	19/2Q	増 減
受注高	4,063	4,259	195	3,761	3,911	150
売上高	3,207	3,223	16	2,913	2,980	66
営業利益	9	49	39	△17	42	59
経常利益	9	45	35	△18	38	57
四半期純利益	9	48	38	△13	43	56
	19/3末	19/9末	増 減	19/3末	19/9末	増 減
総資産	8,011	7,378	△632	7,512	6,995	△516
有利子負債	1,108	988	△120	1,058	988	△70
自己資本	3,564	3,562	△1	3,408	3,398	△10
(自己資本比率)	(44.5%)	(48.3%)	(3.8p)	(45.4%)	(48.6%)	(3.2 p)
(D/E)ソコNET)	(△0.02倍)	(△0.02倍)	(0.00倍)	(0.04倍)	(0.04倍)	(0.00倍)

2019年2Q決算(連結)のポイント



- ◆ 売上高：前年同期比16百万円増、原価率：同 Δ 2.9ポイント減
- ◆ 売上高の増加と原価率の改善により粗利益段階では前年同期を大きく上回る
- ◆ ボーリング機器関連…売上は国内海外ともに主力製品（RPD機）の出荷が下期にずれ込む
- ◆ 工事施工関連…トンネル先進調査ボーリング工事が好調に加え大口徑立坑掘削工事（BM工事）が利益に貢献

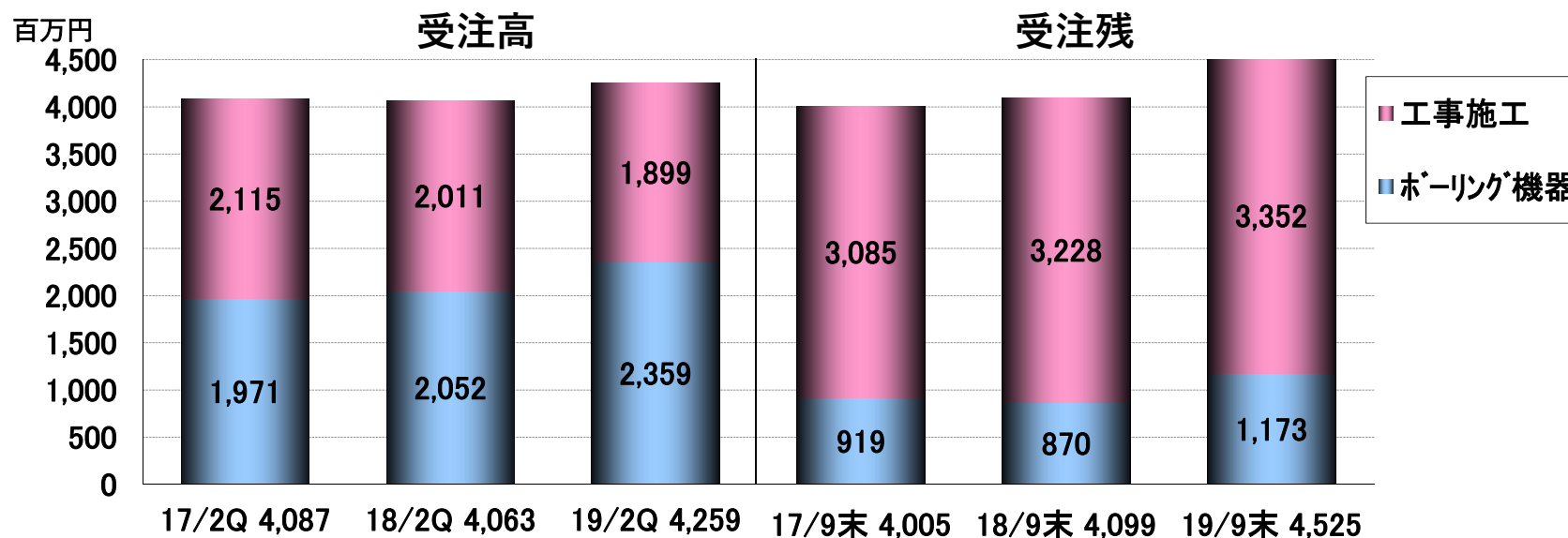
要約連結損益計算書

(単位:百万円)

	18/2Q	19/2Q	前年同期比増減	
売上高	3,207	3,223	16	0.5%
売上原価 (原価率)	2,434 (75.9%)	2,353 (73.0%)	△80 (△2.9%)	△3.3%
売上総利益	773	869	96	12.5%
販売費管理費	763	820	57	7.5%
営業利益	9	49	39	402.7%
営業外損益	△0	△4	△3	—
経常利益	9	45	35	388.4%
特別損益	0	15	15	—
法人税等	△1	12	14	—
非支配株主利益	1	0	△1	—
四半期純利益	9	48	38	395.1%

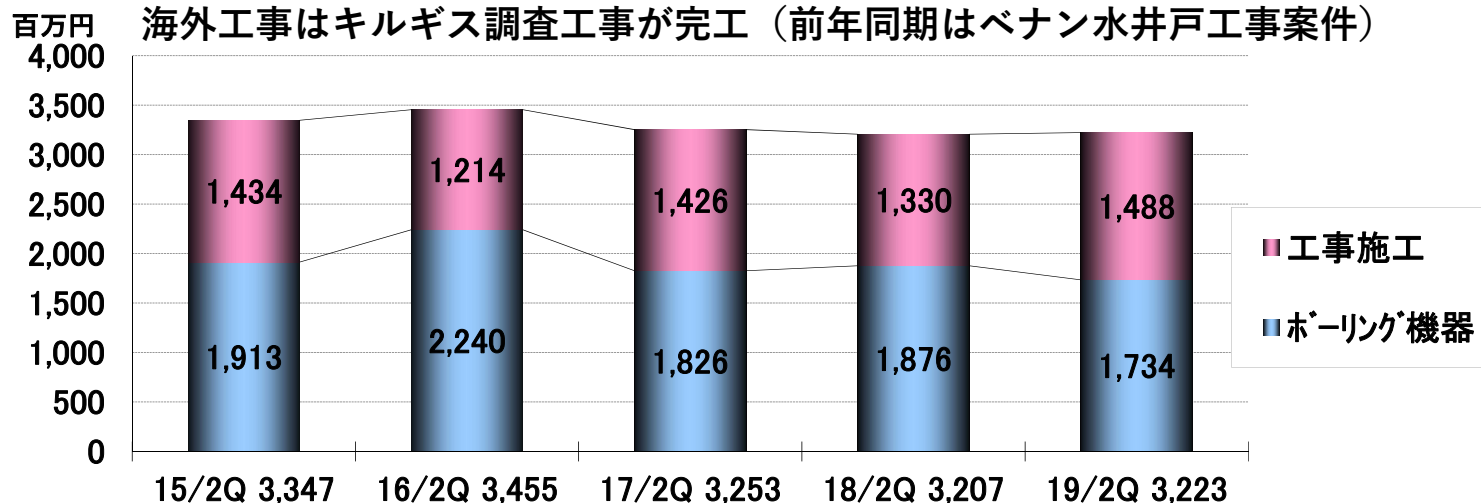
受注状況…受注高は前年同期比4.8%増

- 受注高は4,259百万円、前年同期比+195百万円増
 ～ボーリング機器は、海外でODA水井戸案件がなく大きく減少したが、国内で機械本体を中心に受注確保したことにより受注高全体では前年同期比+307百万円増
 ～工事施工は、BM工事、コントロールボーリング工事及び温泉工事で大型受注を確保したが、トシ先進調査工事が前年同期と比べると減少したため、受注高全体では前年同期比△111百万円減
- 19/9末受注残は4,525百万円、前年同期比+425百万円増



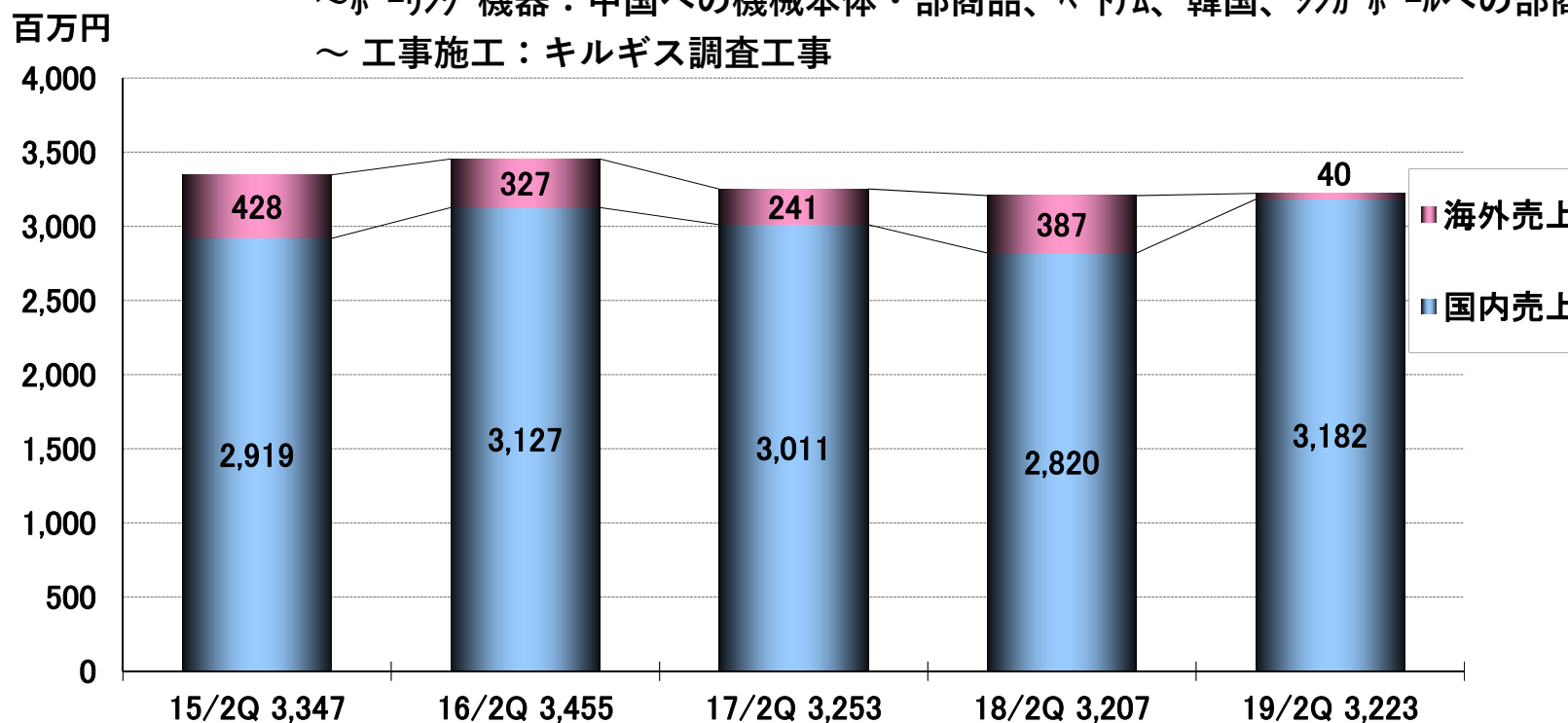
売上高…前年同期比+16百万円(+0.5%)増

- ボーリング 機器1,734百万円、前年同期比△141百万円減
 国内は主力ボーリングマシンRPD機及び関連機材を中心に出荷が増加
 (前年同期比+9.5増の1,703百万円)
 海外販売は小型ボーリングマシンの出荷はあったが、RPD機やODA水井戸案件の出荷はなく部商品
 が中心で大きく減少 (前年同期比△90.4%減の30百万円)
- 工事施工1,488百万円、前年同期比+157百万円増
 国内工事は地下水工事、アンカー工事は減少したが、トンネル先進調査工事、BM工事、温泉掘削
 工事の完工高が増加 (前年同期比+16.9%増の1,478百万円)
 海外工事はキルギス調査工事が完工 (前年同期はベナン水井戸工事案件)



海外売上高…前年同期比△89.5%減

- 海外売上は40百万円、前年同期比△346百万円と大きく減少
～海外売上高比率1.3%
- ボーリング 機器海外売上△289百万円減：工事施工海外売上△56百万円減
～ボーリング 機器：中国への機械本体・部商品、ベトナム、韓国、シンガポールへの部商品
～工事施工：キルギス調査工事



地域別売上高...ODA案件なく海外比率減少

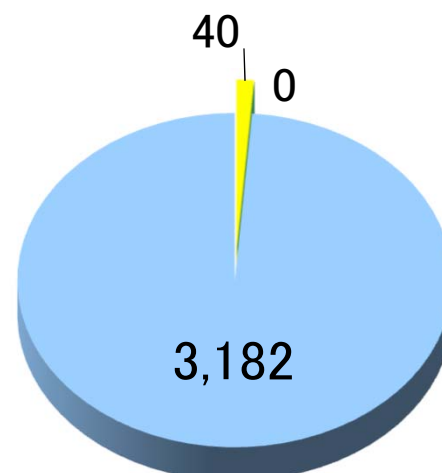
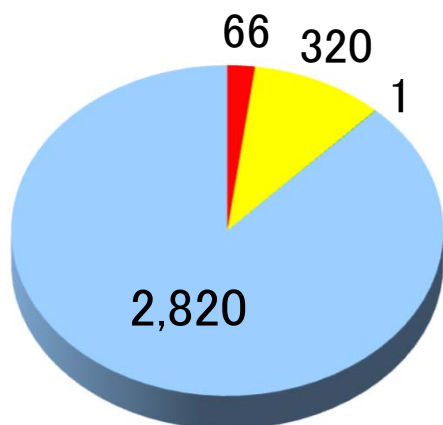
18/2Q

- <アフリカ> ベナン (ODA工事)
- <アジア> 中国、ベトナム、
シンガポール、ミャンマー (販売)
- <その他> ロシア (販売)

19/2Q

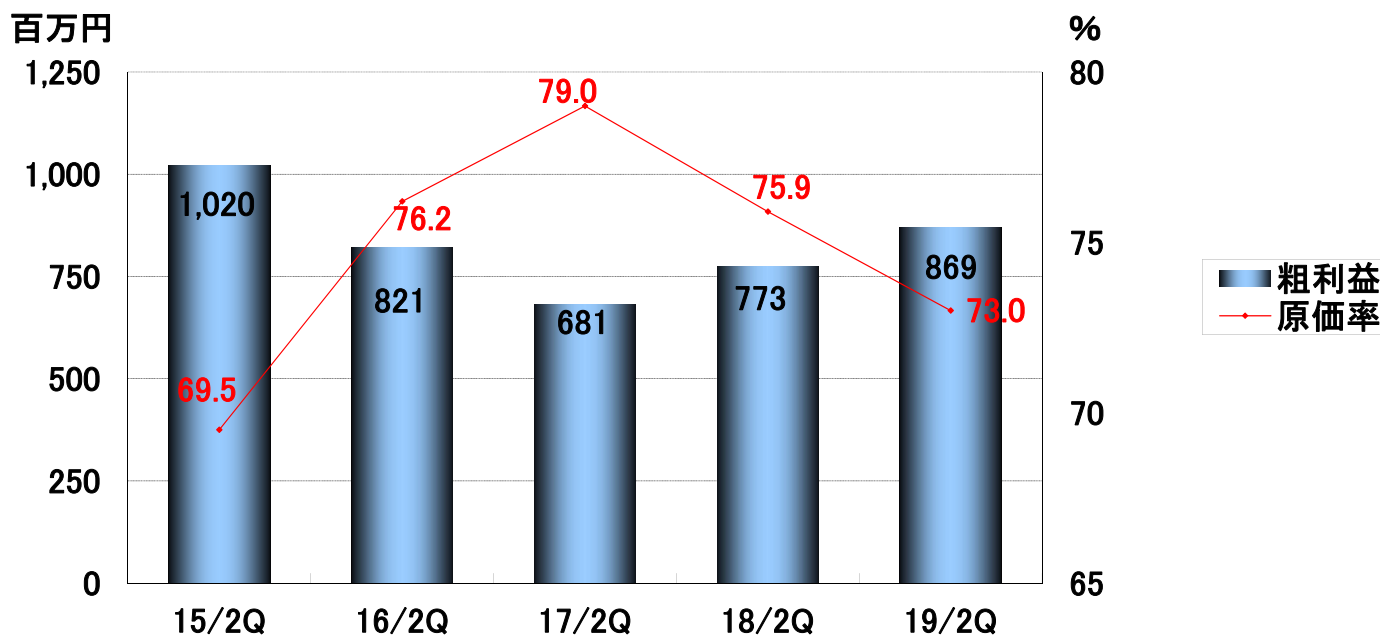
- <アフリカ> なし
- <アジア> 中国、ベトナム、韓国、
シンガポール (販売)、
キルギス (工事)
- <その他> ペルー (販売)

(単位:百万円)



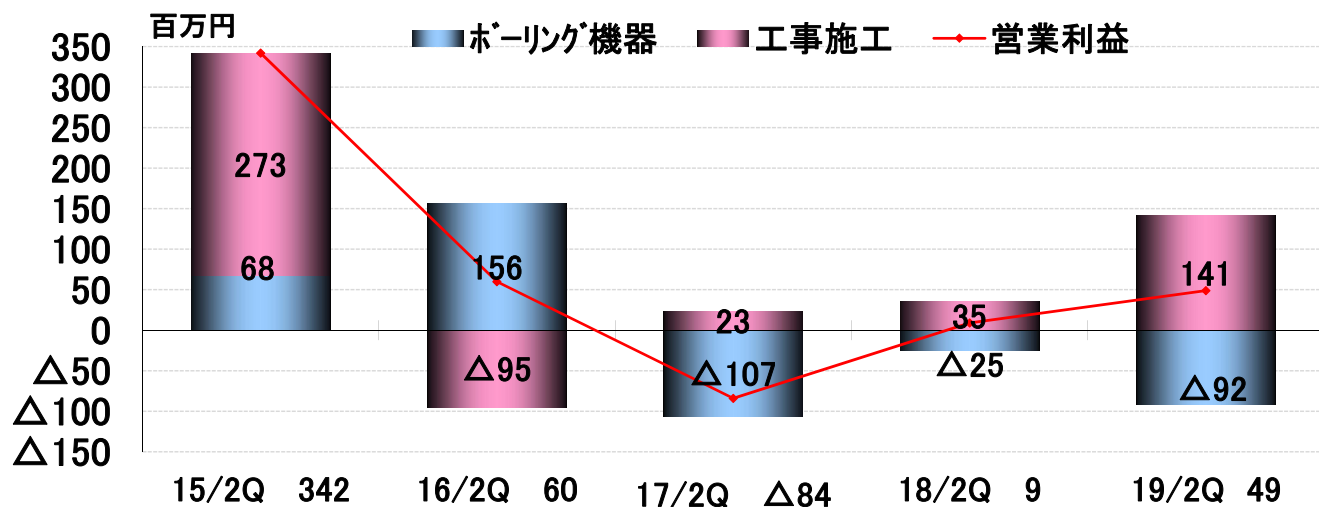
粗利益の推移・・・前年同期比12.5%増

- 粗利益は869百万円、前年同期比+96百万円増（原価率△2.9ポイントダウン）
 - ～ボ-リング 機器関連では引き続き個別原価管理を行うも、売上高が7.6%減少した影響で原価率も0.9ポイント増加し粗利益は△56百万円減少
 - ～工事施工関連では売上高は+157百万円増加し、原価率も当社得意工種の完工が寄与したため前年同期比8.2ポイント改善したため、粗利益は61%増加の399百万円を計上



営業利益(セグメント利益)49百万円

- 営業利益49百万円、前年同期比+39百万円増
- ホーリング機器関連は△92百万円のセグメント（営業）損失
 - ～引き続き特機の高原価をおこさない体制により逐次、個別管理を行っているが、販管費が増加したことにより当セグメントの固定費負担額も増加したため前年同期比較でも△67百万円悪化したセグメント損失を計上
- 工事施工関連は141百万円のセグメント（営業）利益を計上
 - ～売上高が前年同期比+157百万円増加したことと、当社得意工種の完工による原価率改善が相まってセグメント利益は前年同期比105百万円増加



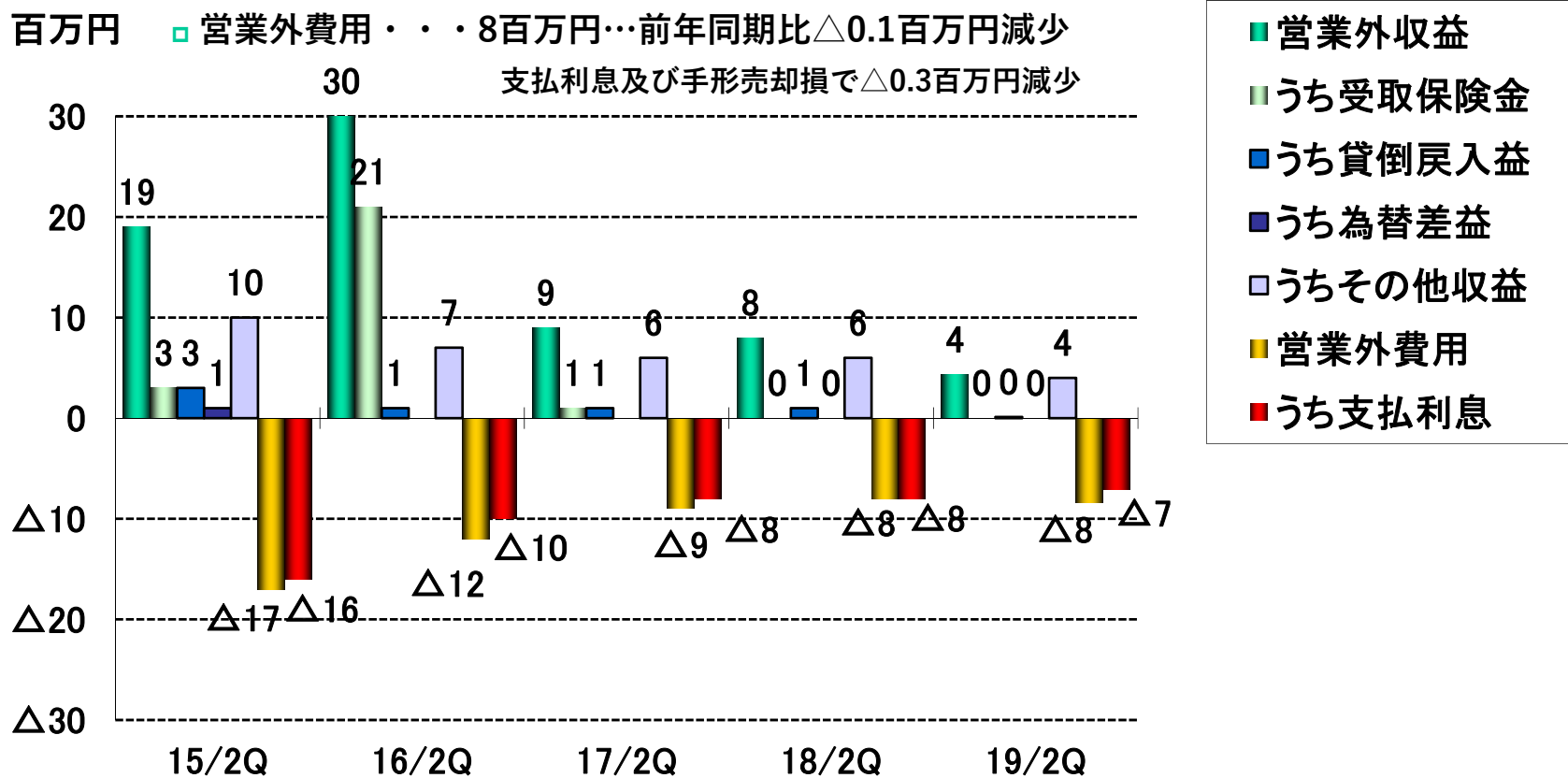
営業外損益 (NETで△4百万円の費用)

□ 営業外収益・・・4百万円…前年同期比△3百万円減少

前年同期は賞与引当金と貸倒引当金戻入額で計2百万円計上

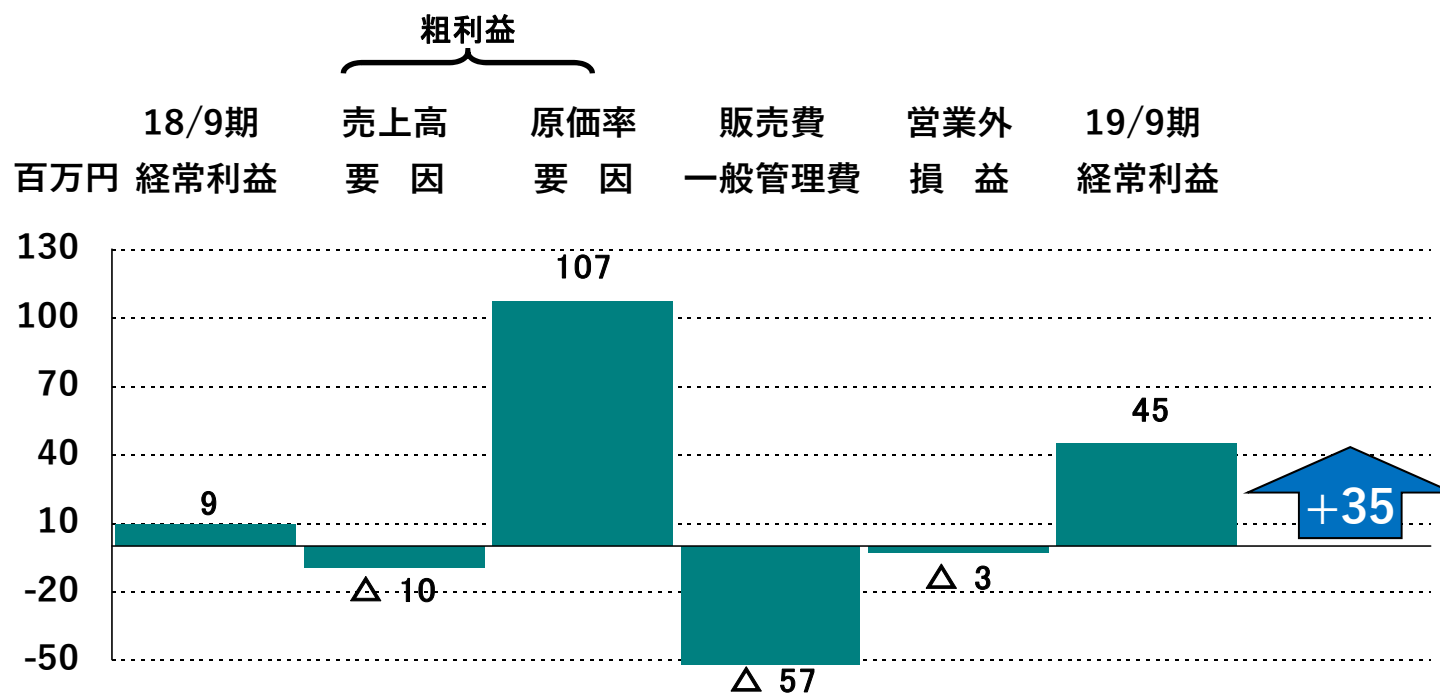
□ 営業外費用・・・8百万円…前年同期比△0.1百万円減少

支払利息及び手形売却損で△0.3百万円減少

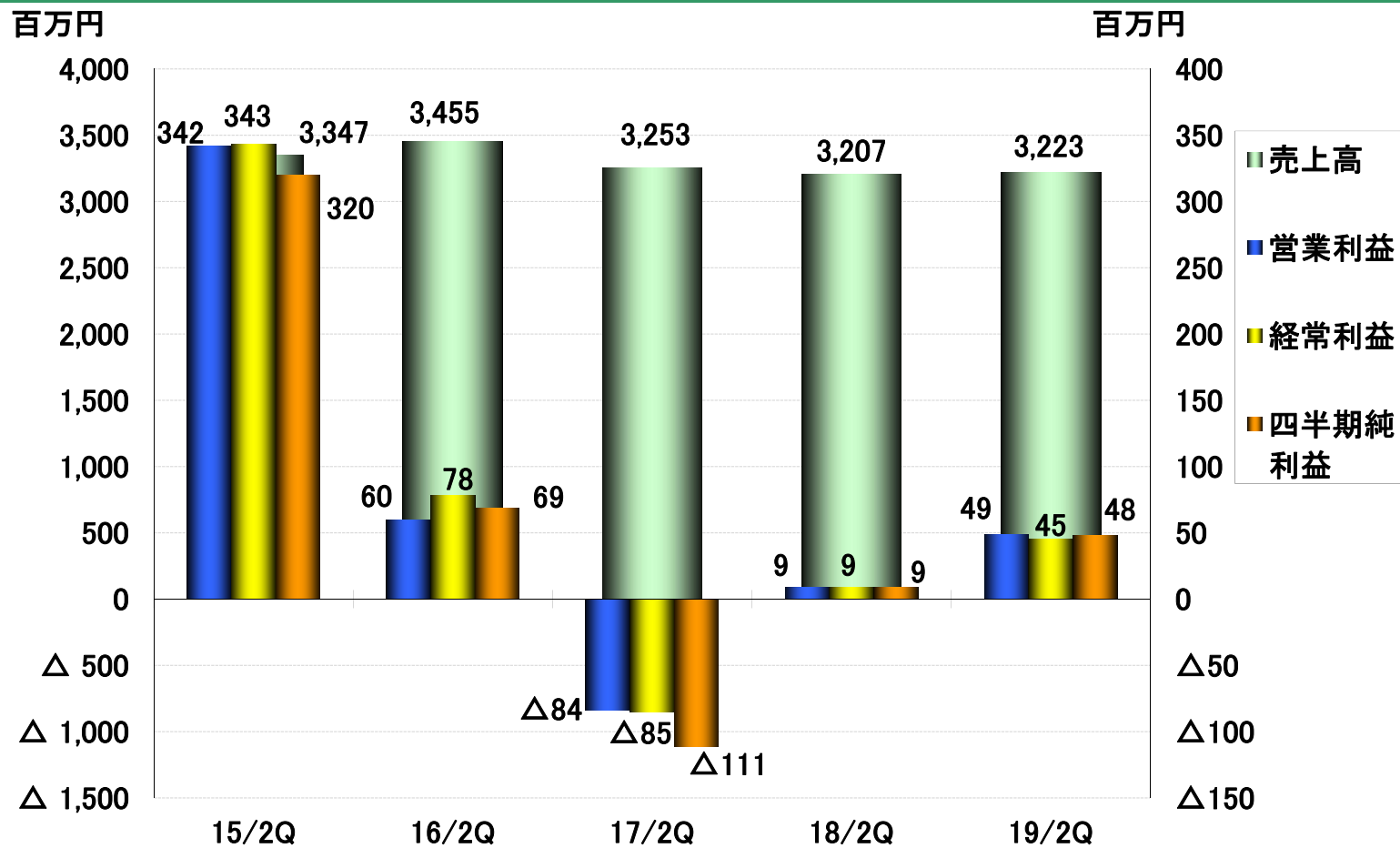


前年同期との経常利益差異要因

- 粗利益は96百万円増加
 ～売上高増加だが粗利益に与える影響は△10百万円減益
 原価率△2.9ポイントダウン（75.9%⇒73.0%）により107百万円の増益
- 販売費及び一般管理費は57百万円費用増加、営業外損益NET△3百万円の費用増加はあるが、
 経常利益は45百万円で前年同期比35百万円の増益となる



売上高・利益の推移



連結貸借対照表の概要(資産)

(単位:百万円)

	19年3月末	19年9月末	増 減
現金及び預金	1,186	1,067	△119
売上債権	2,595	1,607	△987
棚卸資産	2,143	2,484	341
その他流動資産	89	121	32
流動資産計	6,015	5,281	△733
有形固定資産	1,604	1,699	95
無形固定資産	24	34	9
投資その他資産	367	362	△4
固定資産計	1,996	2,096	100
資産合計	8,011	7,378	△632

□ 総資産は7,378百万円、△632百万円減

～ 流動資産は棚卸資産341百万円増加（ホーリング機器関連280百万円と工事施工関連60百万円増加）、

その他流動資産は未収入金、前払費用等で32百万円増加したが、現金及び預金△119百万円、売上債権（受取手形及び売掛金、電子記録債権、完成工事未収入金）△987百万円減少したため前期比△733百万円の5,281百万円

～固定資産は153百万円の設備投資を行う一方、減価償却△47百万円を実施した結果、前期比100百万円増加し、2,096百万円



連結貸借対照表の概要(負債・純資産)

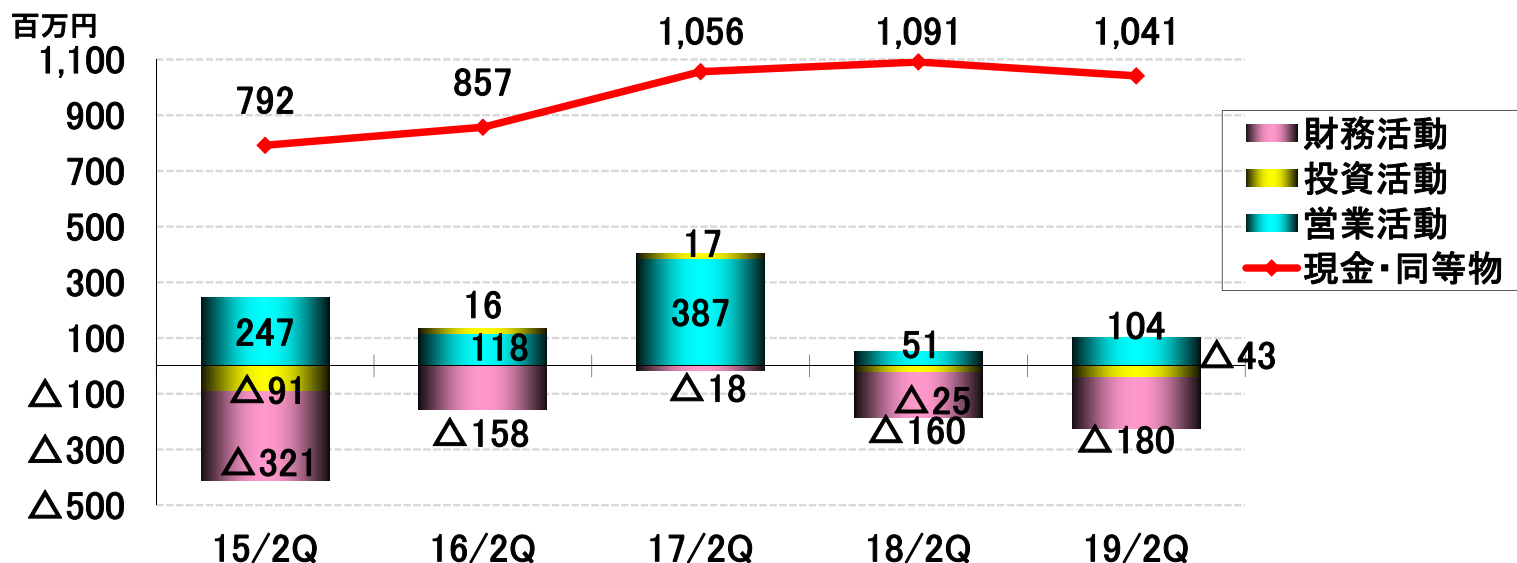
(単位:百万円)

- 負債は3,796百万円△631百万円減
- 流動及び固定負債は買入債務(支払手形及び買掛金、電子記録債務、工事未払金)△242百万円、有利子負債(長期・短借入金等)△120百万円、未成工事受入金△73百万円、未払法人税等△65百万円減少したことにより前期比△631百万円減の3,796百万円
- 純資産は△1百万円減少し3,581百万円に(自己資本比率48.3%)
 ~純利益48百万円、配当金△53百万円、その他の包括利益3百万円
 非支配株主持分0.3百万円

	19年3月末	19年9月末	増減
買入債務	1,789	1,547	△242
短期借入金	770	670	△100
長期借入金	338	318	△20
その他	1,530	1,261	△269
負債合計	4,428	3,796	△631
資本金	1,165	1,165	—
資本剰余金	0	0	—
利益剰余金他	2,275	2,269	△5
その他包括利益他	123	127	3
非支配株主持分	18	18	0
純資産合計	3,583	3,581	△1
負債・純資産合計	8,011	7,378	△632

キャッシュ・フロー(CF)

- **営業CFは104百万円の収入**：収入の主なものは売上債権の減少970百万円、税金等調整前当期純利益60百万円、減価償却費の計上47百万円で、支出の主なものは棚卸資産の増加403百万円、仕入債務の減少252百万円、未成工事受入金の減少73百万円、法人税等支払67百万円、役員退職慰労引当金の減少56百万円
- **投資CFは△43百万円の支出**：支払の主なものは有形・無形固定資産取得（設備投資）△60百万円
- **財務CFは△180の支出**：借入金は100百万円の調達に対し△220百万円の返済、配当金△53百万円の支払
 ～現金・現金同等物の期末残高は、期首に比べると△119百万円減少し1,041百万円に



2020年3月期連結業績見通し

- 「2018中期経営計画」(2018年度～2020年度)に基づき、引き続き『①粗利率のアップ、②固定費低減、③売上拡大』を推進
- 営業・技術・工事一体による営業、次世代新型RPD機の開発し、次年度には国内外市場投下
- ～ボーリング機器関連:ボーリング機械のロボット化・新製品化の早期投入とリニア中央新幹線関連コントロールボーリング機材の受注・販売で売上増加を図る
- ～工事施工関連:北海道新幹線関連トンネル先進調査ボーリング工事を中心にリニア中央新幹線関連のコントロールボーリング工事と石灰山での大型BM工事で完工高増加を図る
- 業績見通しは、2019年4月24日発表から変更はありません (単位:百万円)

	19年3月期	20年3月期	増 減	
売上高	7,137	8,000	862	12.1%
営業利益	272	290	17	6.3%
経常利益	267	280	12	4.7%
当期純利益	179	200	20	11.3%

注) 上記予想は、当社が本日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と大きく異なる可能性があります。

地球上
KOKEN
する会社。



ミュージアム 鉦研
地球の宝石箱
KOKEN EARTH SCIENCE MUSEUM